

<研究ノート>

少人数の情報処理教育における意識調査から

中 谷 勇 介

1. はじめに

本学の経済学部では特色ある教育カリキュラムとして、情報および英語における少人数教育を実施するインテンシブプログラムと銘打った科目群が用意されている。2年生前期から3年生後期にかけて履修が可能であり、なかでも情報教育ではコンピュータ演習ⅠからⅧまで8コマ用意している。すべてを2年かけて履修することでより高度なコンピュータスキルを身につけることが可能である。経済学部では1学年1000人を超える在学生在員がいる中で、少人数によるハイレベルできめ細かな教育については学習意欲のある学生からは関心も高い。しかしながら、受講生のレベルを考えると、「意欲はあるが知識やスキルは低い」学生や「もっとハイレベルな授業を望む」学生もおり、授業の内容や水準をどのレベルにすればよいかは悩ましい問題である。FDとの関係でこれまで1年おきに全学的なアンケートは実施されてきたが、設問内容は画一的であり、このインテンシブプログラムに関してはアンケート結果の授業内容へのフィードバックは難しい。そこで筆者は筆者が担当するインテンシブプログラム [情報] のうちコンピュータ演習Ⅶおよびコンピュータ演習Ⅷの科目を受講する学生を対象にアンケート調査を実施し、本科目の授業内容およびレベルについての意識調査を行った。アンケートにより得られた結果は筆者が予想していた以上に学生の本音も拾うことができおり、授業の問題点だけでなくカリキュラム内容への示唆的な意見が含まれていると感じられた。そこで本稿では、アンケートの結果から、インテンシブプログラム [情報] における効果的な授業内容には何が求められており、我々担当者は何を提供すべきかについて考察したものである。

2. 調査の概要

アンケート調査の内容に入る前に、調査対象であるコンピュータ演習ⅦおよびⅧについて簡単に説明しておきたい。アンケート対象としたコンピュータ演習Ⅷは筆者が担当し、後期に3コマ(水曜3限、金曜1限、金曜2限)開講しており、インテンシブプログラム [情報] を受講する学生はいずれかの決められた時限に受講する。コンピュータ演習Ⅷは前期のコンピュータ演習Ⅶとセット内容になっており、担当者も受講生も開講時限も同じである。受講者数(履修登録者

数)は水曜3限が11人、金曜1限が19人、金曜2限が14人となっている。授業はデータベースについて学ぶ内容となっており、前期のコンピュータ演習Ⅶでは、データベースのしくみや構造、SQL文について学ぶ。後期のコンピュータ演習Ⅷでは、Microsoft SQL Server 2005とVisual Web Developer 2005を用いて実際にSQLデータベースにアクセスするWebアプリケーションを作成し、演習でEコマースサイトを構築するというものである。実習環境は経済学部ワーキングルームのWindows Vistaパソコンを利用している。Windows Vista上に仮想環境のアプリケーションであるVMWareをインストールし、そのVM環境上にWindows XPをインストールした上に、実習に必要なMicrosoft SQL Server 2005とVisual Web Developer 2005をインストールして利用する。実質的な実習環境は仮想環境上のXP(ゲストOS)であるのでいわばSand Boxとして利用することができ、学生が設定を変更したり、万が一システムを壊したりしたとしても宿主OSのVista側には一切影響がないという点でVMの利用はメリットが高い。このため本来なら全学のパソコンルームを利用することが一般的であるが、利用するソフトウェアの関係上全学のパソコンシステムでは対応が難しいために、やむなく経済学部ワーキングルームを利用している。

では早速アンケートについて見ていきたい。本アンケート調査は無記名でコンピュータ演習Ⅷを履修する学生(44人)に対し、全学的に実施された授業アンケートと同日に実施した。アンケート実施日に欠席した学生や履修をやめてしまった学生もいるため、回収数は39で回収率は88.6パーセントであった¹⁾。

設問内容については大まかに、1でインテンシブプログラムを履修した理由や自身のコンピュータスキルなどについて質問している。2ではコンピュータ演習ⅦおよびⅧについて到達度、期待していた内容、難易度などについて質問している。3では学籍番号について質問している。なぜ無記名のアンケート形式にしなかった理由は、各人が回答した内容について筆者が確認をしたかったためである。たとえば、PCスキルや到達度を考えると、受講生のレベルは上位層、中位層、下位層と大まかには3つのレベルに分けて考えることができる。このときそれぞれのレベルに属する代表的な学生について、彼らがどのように感じており、またこちらが思っていたギャップはどれくらいであったのかを確認したいと思っていたためである。以下でその結果について簡単に見ていくことにする。

2.1 インテンシブプログラム [情報] 全般

【設問1】 インテンシブプログラム [情報] について、当初(1年のエントリー時)あなたが受講を決めた理由は何でしたか。1つ選んでください。

D(高度なコンピュータスキルを身につけたい)が最も多く全体の68.9パーセントを占め、次いでB(就職に有利)の13.7パーセント、A(まとまった単位がもらえる)の10.3パーセント

となった。C（資格取得に有利）については1人も選択しなかった。この結果については、1年次の後期にインテンシブプログラム〔情報〕を受講するためのガイダンスがあるが、その際にインテンシブプログラムの位置づけ、すなわち高度なコンピュータスキルを身につけるという点を説明しているためと思われる。受講生の多くがこの点を理解した上で受講していると考えられる。

【設問2】 インテンシブプログラム〔情報〕の受講にあたって、コンピュータ演習Ⅶ・Ⅷのシラバス（やガイダンス時の説明）が影響を与えましたか。1つ選んでください。

B（やや受けた）およびC（あまり受けなかった）が同数で37.9パーセントを占めて最も多く、次いで同じくA（強く受けた）とE（どちらでもない）も同数で10.3パーセントとなった。AとBを合わせると48パーセントをこえることから、半数近くの受講生がインテンシブプログラムを履修するにあたってコンピュータ演習Ⅶ・Ⅷの内容が動機に影響を与えていることがわかった。ガイダンス時に筆者が履修希望者に対して、コンピュータ演習Ⅶ・Ⅷの内容はEコマースサイト構築を具体例として説明したためと思われる。AmazonをはじめとしたEコマースサイトは学生にとってもイメージしやすく、また身近なものであるために受講動機に大きく作用したとも考えられる。

【設問4】 あなたのPCスキルはどのレベルだと思いますか。1つ選んでください。

B（どちらかといえばできる）が51.7パーセントと半数以上を占め、次いでC（どちらかといえばできない）の44.8パーセント、そしてD（できない）の3.4パーセントとなった。高度な内容を扱う割に自らのPCスキルに自信を持っているのは半数であることがわかった。一方で意欲があるもののスキルに対しては自信がない学生も半数近くおり、このことが授業運営に大きく影響することとなる。実際に授業を行っているとき、Windowsのファイル操作がおぼつかない学生がいることに気づく。たとえば、ファイルの階層構造への理解が不十分であるために作成したファイルがどこにあるかわからない、あるいはWindowsを使い慣れていないので共通するユーザーインターフェイスの操作がいつまでも理解できないなどのケースが見受けられる。このため、一部の学生はこちらが指示する操作の内容が理解できないこともあり、「できる学生」と「できない学生」との二極化がいつそう進む原因となっている。

【設問5】 インテンシブプログラムの2年間で身につけたいと思っていたコンピュータスキルは何ですか。優先順位を書いてください。A) Word, B) Access, C) Excel, D) データ処理, E) VBプログラミング, F) データベース, G) その他

第1位として挙げたものを見ていくと、C (Excel) が41.3パーセント、次にE (VBプログラミング) の24.1パーセント、次にA (Word) の13.7パーセントの順となった。高度なコンピュータスキルを身につけることの「高度な」というわかりやすいイメージが学生にとってみるとExcelを自在に操ることであるのかもしれない。ほとんどの受講生のExcelのスキルを見てみるとそれほど高くないことに気づく。その意味でExcelを身につけたいという欲求があるのかもしれない。一方で、「高度な」というイメージがわかりやすいものとしてプログラミングがある。VBのプログラミングを身につけてパソコンを自在に操りたいという欲求があるのかもしれない。

2.2 コンピュータ演習Ⅶ・Ⅷについて

【設問6】 コンピュータ演習Ⅶ・Ⅷを受講してあなたの到達度はどれくらいであると思いますか。(ア)～(オ) からそれぞれ1つ選んでください。

A) データベースの構造

イ (どちらかといえばわかる) の55.1パーセントが最も多く、次にウ (普通) の31パーセント、そしてエ (どちらかといえばわからない) の13.7パーセントであった。データベースの構造は前期のコンピュータ演習Ⅶの内容である。Accessも利用しながら学んだためわかりやすかったのではないかと考えられる。

B) SQL文の理解

ウ (普通) の58.6パーセントが最も多く、次いでイ (どちらかといえばわかる) の24.1パーセント、そしてエ (どちらかといえばわからない) の13.7パーセントであった。これも前期コンピュータ演習Ⅶの内容である。情報系の資格のいくつかではSQLに関する知識が必要とされるが、一般的にこれらの内容を学ぶ機会は少なくゼロから構文を理解することでかなりハードルが高かったように思われる。文法を覚える作業は非常に無味乾燥な作業であるが、SQL Server Management Studio を利用しながらビジュアルで理解することができないか試みた。また、確認テストを行ったことで理解度が上がったと考えられる。

C) データベース操作 (SSMS等を利用したSQL文の活用)

ウ (普通) の51.7パーセントが最も多く、次にエ (どちらかといえばわからない) の31パーセント、そしてイ (どちらかといえばわかる) の17.2パーセントであった。これはコンピュータ演習Ⅷの内容である。高度な作業をしているわけではないのでSSMS (SQL Server Management Studio) の操作方法が理解できていない学生、つまり基本的なWindows操作がうまくない学生がもたついているという印象である。半数以上の学生が違和感なくできているということは、前

期の SQL 文についての授業をきちんと理解しているということにつきるだろう。

D) Web プログラミング (VWE を使ってコントロールを配置してコードを書き直す)

イ (普通) が 53.8 パーセントと最も多く、次にエ (わからない) が 25.6 パーセント、そしてウ (どちらかといえばわからない) が 20.5 パーセントであった。これもコンピュータ演習Ⅷの内容である。本授業では Web アプリケーションを作成するというのが 1 つの目標なのであるが、プログラミング言語でコードをフルスクラッチで一から記述するというのは時間的にもスキルのにもまず困難である。このため、後述するようになるべくコード記述が少なくすむような開発方法 (.NET ASP の利用) を本授業では採用している。.NET ASP では後述のように実質的にコードの部分は VB や Java などの自分が得意とするコードで記述することで簡単に Web アプリケーションを作成できる。本授業では VB のコードが自力で書けるとは言わないまでも、その VB コードの意味することが読めて、それをパーツとしてアレンジできるということが求められる。つまり VB のスキルが必要であるが、VB のスキルは一朝一夕につくものではなく、またプログラミング言語の学習は本人の自己学習や意欲によるところも大きいため、受講生の多くが有する VB のプログラミングスキルはそれほど高くはない。

また、VB スキルの低さという点と関連するが、プログラミングにつきもののデバッグ作業の存在が結果に表れているとも考えられる。コードの入力が即プログラムの実行につながるわけではなく、コードの入力間違えによりデバッグ作業が避けて通れない。しかし、デバッグ作業は数秒で原因が見つかることもあれば、何十分もかかることもあり辛抱強さと集中力が必要である。このため授業の時間内にデバッグが終了しないケースもあり「わからない」という結果に結びついているのではないかと考えられる。

【設問 8】 コンピュータ演習Ⅶ・Ⅷの授業の難易度はどのくらいに感じましたか。1 つ選んでください。

D (やや難しい) が最も多く 51.2 パーセント、次いで E (難しい) が 25.6 パーセント、C (普通) が 23 パーセントの順であった。.NET ASP を利用することでコーディングの負担は軽減しているものの、VB でコーディングするスキルについてはあまり高くないために Web アプリがうまく動かず、結果的に難しいと感じていると考えられる。とはいえ、簡単に書けるようなものでは E コマースサイトを作ることができず筆者にとっても難しい点である。

【設問 10】 受講生の数について、この授業の人数が授業内容と照らし合わせて適性であると思えますか。1 つ選んでください。

A (思う) が96.5パーセントで最も多く、それ以外はC (わからない) の3.5パーセントであった。ほぼすべての学生が人数について適正であると回答している。演習の時間中に手を挙げた学生からの質問にも答えることができている、現状の11人~19人という規模は適正であると考えられる。とはいえ、授業内容は高度であるので20人をこえる規模というのは学生からの質問にも対応できないので考えにくい。

【設問12】 もし、コンピュータ演習Ⅶ・Ⅷにおいて以下の3コースがあったとします。「ハイレベル・コース」(より高度な内容)、「レギュラー・コース」(本授業)、「エレメンタリー・コース」(やや内容を減少)の3つが選択できるとすれば、あなたにとって最もふさわしいと思うものはどれになりますか。1つ選んでください。

B (レギュラー・コース) の55.1パーセントが最も多く、次いでC (エレメンタリー・コース) の41.3パーセント、A (ハイレベル・コース) の3.4パーセントとなった。設問11の結果を反映してほとんどの学生がレベルを下げたものを希望しているのではないかと予想されたが、実際には半数以上の学生が現状のレベルを希望している。設問13の自由記述を見ると、「高度なコンピュータスキルを身につける」ということを目標にした学生が多いため、これ以上レベルが下がることは期待したものが身につかないと考えているようである。とはいえ、40パーセントを超える学生もレベルを下げて欲しいと希望しており、習熟度別のクラス編成も考える必要があるともいえる。

3. 何が求められ、何を提供するか

実習環境から

本アンケート調査によっていくつかの点が浮かび上がってきた。本授業(コンピュータ演習ⅦおよびⅧ)は、データベースを構築し、それを利用したWebアプリケーションを作成することを目標としている。一般的にパーソナルなPCの利用法ではデータベースをフルに活用した作業というものはあまりないと思われる。身近なデータベースソフトはMicrosoft Accessを利用したものなどが考えられるが、日々の生活でデータベース化するものの存在は趣味の世界を除けばあまりないために、他のOfficeソフトと比較して難しく感じてしまう。データベースにおける応用可能な知識という点で考えればSQL文の習得が避けて通れないが、AccessではSQLについての知識は基本的に必要ではないため、本授業でAccessの採用は不可能である。また、外部からのアクセスを前提としたWebアプリケーションとの連携を考慮すると、Accessでは機能的に不十分であるので、一般の学生(社会人も)が触ることのないMicrosoft SQL Server等のソフトウェアを利用するということになる。

SQLデータベースを利用したWebアプリケーションであるが、一例としてMySQL+PHPとい

うシステムも可能である。Web サーバー構築における柔軟性と安全性を考えると、httpd サーバーにおいては IIS ではなく Apache を筆者としては採用したいのであるが、限られた授業時間と学生のネットワークに関する知識を勘案すると IIS を利用した方が望ましいと思われる。そうすると、IIS の採用は親和性の高い ASP .NET 環境の利用という結論に落ち着く。これに加えて ASP .NET は他の開発環境は大きな利点を有している。それは、Visual Basic .NET をはじめとして、Visual C# や Visual J#.NET など多くの言語がサポートされているという点である。このため、学生得意とする、あるいは今後習得したい言語を開発言語にして Web アプリケーションを作成することができるという点である。また、.NET Framework の充実したクラスライブラリを利用することができるため多彩な表現が可能である。

この ASP .NET 環境を利用して Web アプリケーションを作成するためのツールとして Visual Studio、もしくはその無償版（Web アプリケーション開発機能のみ）の Visual Web Developer が存在する。前述のように、本授業では自宅に PC を所有する学生が自宅で予習等を行うことを前提に Visual Web Developer 2005 を採用している。これらのツールは GUI 環境で比較的簡単に Web アプリケーションを作成することが可能である。HTML エディタとしても利用できるもので、作成したいデザインをイメージしながら作ることが容易であり、また Web コントロールなどの「部品」を配置することで自動的にコードも追加されていく。このためそれほどコードを入力しなくても Web アプリケーションを作成することが可能である。

次に SQL サーバーをどのソフトウェアで動かすかという点になるが、入手可能性を考えればフリー系の MySQL や PostgreSQL が思い当たる。とはいえ、Visual Web Developer には Express 版ではあるが Microsoft SQL Server が付属しており、Visual Web Developer をインストールさえすれば SQL も利用可能な開発環境ができあがる。

こうした点を勘案すると、限られた時間内にそれなりの「作品」を演習時間で仕上げるという目的を達成するには Microsoft SQL Server + Visual Web Developer という環境を採用するのが効果的であると筆者は考えるのである。とはいえ、これらのソフトウェア群は Excel や Word と異なり、特定の目的を実現するかなり専門的なソフトウェアであり、まさに学生が触れたことのない未知のソフトウェアといえる。見たこともないソフトウェアを利用して課題を作成するという点で、ソフトウェアの操作方法の習得に時間がかかる学生も少なくないため「難しい」と感じてしまう学生が発生してしまう。

PC スキル

これらのソフトウェアの操作方法の習得に時間がかかるという点についてはいくつかの理由が存在している。まず、単純に累積の操作時間が少なくて操作に戸惑うという点が大きいが挙げられるだろう。ただし、これは授業回数を経ていくにつれてだんだん慣れてくるため、学期の終盤では解消されつつある。これともう 1 点指摘したいのは、受講する学生の中で PC スキルが

あまり高くない学生がいるという点である。PCスキルといっても、ファイル操作や基本的なWindowsアプリケーションのGUI操作といったものである。現在のコンピュータ演習受講者は1年次に筆者の担当する「コンピュータ概論」の単位を取得した上で、履修希望届けを提出して履修をしている。履修の条件はコンピュータ概論の単位取得のみであり、PCがどのくらい使えるかなどの制限は一切設けていない。とはいえ、このような「高度なコンピュータ知識を身につける」ことを前提としたコンピュータ演習に履修希望を提出する学生において「PCスキルに問題がある」学生が存在するのは考えにくいことであったため、そのような学生にとって授業内容は「非常に難しい」と感じるものであったと思われる。とはいえ、PCに触れる時間、アプリケーションに触れる時間が長くなればこれらの点は克服されるであろうし、むしろプログラミングという点では「やる気と根気」のほうが重要であると考えられる。

学生の求める内容

もう1点指摘できることが、学生がインテンシブプログラムで求める内容、言い換えれば身につけたいスキルについてのギャップである。すでに説明したように、本インテンシブプログラムは簡単に言えば「高度なコンピュータスキルを有する学生の育成」であるのだが、その「高度な」内容が学生によりイメージするものが異なるという点である。アンケート調査を実施した学生は2年次に、インテンシブプログラムのカリキュラムにおいてExcelを利用したデータ処理についての授業を受講している（コンピュータ演習Ⅲ・Ⅳ）。Excelを使いこなすことが「高度なスキル」と理解してこれで十分であると感じてしまう学生が少なからずいるため、3年次の段階（すなわち筆者の授業を受講する段階）でプログラミングやデータベースのようなものには興味がなくなってしまう学生もいる。一方で、プログラミングやデータベースについて高度なものを身につけたいという本来我々が想定する学生も存在している。このような学生にとっては、いわば2年次での内容は自分が身につけたい内容とは若干ベクトルが異なり、また2年次の段階からもっとプログラミングやデータベースに集中したいという要望も今回のアンケート調査結果から浮かび上がってきた。もちろんこうした要望に応えるためには、典型的な2コースを用意するのが望ましいが、現実的にはスタッフの用意も含めて実現は難しいと考えられる。

4. 改善に向けて

我々授業担当者が、受講生がこのコンピュータ演習を履修することで、少人数のメリットを享受しながら「高度なコンピュータスキル」を身につけるためにはどうすればよいかという点について考える必要がある。筆者の担当するコンピュータ演習Ⅶ・Ⅷは、データベースを学ぶ授業とていうものの基本的には「プログラミング」の授業でもあるので、学生が将来プログラミングを行わなければならないときに生かせる「勘所」というのを身につけられる教育内容であるといえよう。プログラミングの授業とはいえ、時間的制約もあるためフルスクラッチで一から

コードを書くわけではない。したがって演習時間の多くの時間はデバッグであったり、既存のコードを流用してアレンジしたりすることに割かれる。デバッグは、いくつかチェックするところを発見すればかなりの時間短縮が可能である。またコードの要所を理解していればすぐにアレンジをすることができる。このような「勘所」を身につけるための例題や演習内容にすることが、授業内容の改善として考えられる。

一方で、受講生がこの授業を受けることで満足度を高める工夫も必要となってくる。1点目は難易度を感じさせない工夫であり、もう1点は達成感を高めるということである。前者については、あらかじめ宿題等を通じてコードを入力させておいて、演習時間中にデバッグのみに専念するというやり方も考えられる。少人数の受講者であるメリットを生かして筆者が受講生とともにデバッグを考えるやり方は、より負担感が軽減すると思われる。

後者については難しい問題である。というのも、我々が日頃目にするようなECサイトや検索サイトのようなより豪華なWebアプリケーションは、アプリケーションが多階層化されており、そのための多数のクラスファイルを作成する必要がある。まさに前者の「難易度」とトレードオフ関係にあるともいえる。とはいうものの、受講生の中には非常に素質の高い学生がおり、こういった学生のニーズを吸収する上でも、多階層化されたWebアプリケーションを作成するようなよりハイレベルな授業内容も必要であるかもしれない。「落としどころ」をどういったものにするかは受講生のレベルとやる気に左右されるため試行錯誤せざるを得ない。

本稿は、次年度の授業内容のみならず、ひいては高度な情報処理教育に対する将来的なカリキュラム内容へのフィードバックを目的として、受講生に対してアンケート調査を行った。受講生には自由記述欄を通じて正直に感想を書いてもらったが非常に有益な回答を得ることができた。「難しい」という感想が多かった中で、一方でレベルについては現状を維持したほうがよいという意見が多数を占めたという点は印象深い。ここに、学生の満足度を高める鍵があると考えられる。就職氷河期といわれる今、学生は授業でスキルを身につけたい欲求が高い。そのやる気をアシストするための工夫が日々求められており、どのように具体的な形で授業に生かすかは今後の筆者ら担当者の課題であるといえる。

【設問 4】 あなたの PC スキルはどのレベルだと思いますか。1 つ選んでください。

- A) できる
- B) どちらかといえばできる
- C) どちらかといえばできない
- D) できない
- E) どちらでもない

【設問 5】 インテンシブプログラムの 2 年間で身につけたいと思っていたコンピュータスキルは何ですか。優先順位を書いてください。

- A) Word
- B) Access
- C) Excel
- D) データ処理
- E) VB プログラミング
- F) データベース
- G) その他 ()

2. コンピュータ演習Ⅶ・Ⅷについて質問します。

【設問 6】 コンピュータ演習Ⅶ・Ⅷを受講してあなたの到達度はどれくらいであると思いますか。(ア)～(オ) からそれぞれ 1 つ選んでください。

- A) データベースの構造
 - (ア) わかる
 - (イ) どちらかといえばわかる
 - (ウ) 普通
 - (エ) どちらかといえばわからない
 - (オ) わからない
- B) SQL 文の理解
 - (ア) わかる
 - (イ) どちらかといえばわかる
 - (ウ) 普通
 - (エ) どちらかといえばわからない
 - (オ) わからない
- C) データベース操作 (SSMS 等を利用した SQL 文の活用)

- (ア) わかる
 - (イ) どちらかといえばわかる
 - (ウ) 普通
 - (エ) どちらかといえばわからない
 - (オ) わからない
- D) Webプログラミング (VWEを使ってコントロールを配置してコードを書き直す)
- (ア) わかる
 - (イ) どちらかといえばわかる
 - (ウ) 普通
 - (エ) どちらかといえばわからない
 - (オ) わからない

【設問7】 あなたがコンピュータ演習Ⅶ・Ⅷ (データベース・SQL・Webプログラミング) の期待していた内容はどのようなものでしたか (自由記述)。

【設問8】 コンピュータ演習Ⅶ・Ⅷの授業の難易度はどのくらいに感じましたか。1つ選んでください。

- A) 簡単
- B) やや簡単
- C) 普通
- D) やや難しい
- E) 難しい

【設問9】 【設問8】でD) およびE) と答えた人に質問です。コンピュータ演習Ⅶ・Ⅷの授業で難しかった内容はどのようなものでしたか。【設問6】を参考にしながらわかる範囲で具体的に書いてください (自由記述)。

【設問10】 受講生の数について、この授業の人数が授業内容と照らし合わせて適性であると思いますか。1つ選んでください。

- A) 思う
- B) 思わない
- C) わからない

【設問11】 【設問10】でB) と答えた人に質問します。適正な人数は具体的にどれくらいである

と思いますか。○人で答えてください。

【設問 12】 もし、コンピュータ演習Ⅶ・Ⅷにおいて以下の3コースがあったとします。「ハイレベル・コース」(より高度な内容)、「レギュラー・コース」(本授業)、「エレメンタリー・コース」(やや内容を減少)の3つが選択できるとすれば、あなたにとって最もふさわしいと思うものはどれになりますか。1つ選んでください。

- A) ハイレベル・コース
- B) レギュラー・コース
- C) エレメンタリー・コース

【設問 13】 【設問 12】で答えた理由についてお聞かせください(自由記述)。

以上で質問項目終わりです。

ご協力ありがとうございました。

注

- 1 アンケートを実施できなかった学生はほとんどが履修をやめてしまった学生であるので、毎回出席をしている学生に対してはほぼ100パーセントの回答を得ることができている。